

東京農工大学 ニュースレター

春号

巻頭対談 理工系教育のこれからと大学改革

地球をまわそう。農工大

- 教育改善支援プログラム(学内GP)の取り組みについて●「日本国際賞」と「マスリー賞」を授賞された遠藤章氏に聞く
- 研究最前線●学生発 こんな授業・こんなゼミ



「理科離れ」に どう立ち向かうか

小畑 今、理工系大学・学部が避けて通ることができない切実な問題が、中高生の「理科離れ」です。少子化による受験生の絶対数の減少に加え、理工系の素養を持つ多くの高校生が、なぜか文系の大学・学部に進学してしまふ……その現状を手をこまねいて眺めているわけにはいきません。本学でも、教員が高校に出向いて出張授業を行ったり、あるいは高校生をキャンパスに招き、大学の施設で実験の楽しさを体験してもらおうなど、さまざまな努力を払っているのですが、残念ながら決定的な処方箋はなかなか見つかりません。

白井 「理科離れ」はほんとうに深刻な問題で、私立大学の理工系学部長の集まりでもいつも熱い議論が交わされます。ただ、この「理科離れ」というのは一種の社会問題ですから、個々の大学だけの努力には限界があります。政府を含めた社会全体の取り組みが必要となるでしょう。

小畑 そうですね。大学入学以前の初等・中等教育の問題も無視することができません。しばしば生物を学んでいない医学部生のご話が話題になりますが、本学でも、化学系の学科に化学の基礎学力が不十分な学生が入学するといったケースがあります。そのため、カリキュラムに専門科目を学ぶために必要な基礎学力を養う補完的な講義を導入していますし、秋に合格が決まる推薦入学者に対しては、入学までの間に通信添削のような形で基礎学力のケアを行っています。

白井 物理、生物、化学などの基礎学力低下はこの大学理学部でも顕著で、大学教員が従来のやり方で専門科目の授業を行うと、落ちこぼれる学生が増えてしまいます。早稲

巻頭対談

理工系教育の これからと大学改革

2007年は“大学全入時代”の始まり——。大学は今、厳しい淘汰の時代を迎えています。「生き残りを賭けた競争は、ここ数年が正念場」と言う本学の**小畑秀文学長**と、理工系出身の**早稲田大学・白井克彦総長**に理工系大学の将来を語り合っていました。



田大学でも1・2年生を対象とした基礎学力の補習を行っています。ただ、そうした対応が、果たして大学教育として健全な姿なのかという疑問もあります。

小畑 「理科離れ」や基礎学力の低下は、いわゆる「ゆとり教育」の影響が大きいのではないでしょうか。授業時間減の余波で、手間と時間がかかる理科の実験などが真っ先にカットされ、小・中学生がサイエンスの面白さを体験できるチャンスが少なくなっています。

また、教える側の「理科離れ」、つまり理科の面白さをきちんと教えてあげることができない先生が減っているのではないかと懸念も抱いています。

白井 「理科離れ」の要因として、子どもたちを取り巻く生活環境の問題もありますね。たとえば子ども時代にカエルや魚をつかまえて遊んだことがない人が、生き物や自然環境にどのくらいリアルな関心を持ち続けることができるかというと、はなはだ疑問です。

小畑 私も少年時代、夢中になって鉱石ラジオを作ったことが研究者に至る原体験としてあります。今の子どもは、先端技術を駆使したハイテク玩具を手に入れているのですが、私たちの少年時代のように、物理現象にシンプルな形で直接触れることができる遊びがほとんどないのかもしれない。

白井 ただ、少なくとも小学校の段階では、今の子どもたちも多様な好奇心を満たしてくれる理科が好きなのです。ところが高校生ぐらいになって、大学受験や将来の進路を意識しはじめると、途端に「理科離れ」をしてしまいます。

小畑 高校の授業科目や受験科目の問題ですね。あるいは文系に比べて理工系の職業が企業での出世や生涯賃金の面で不利だと、マスメディアなどで報じられた影響も大きいかもしれません。

白井 それはあるでしょうね。もともと理工系のプロフェッショナルは、賃金の問題以前に「この分野が好きだ！」という個人の熱意とピュアな好奇心に支えられてきた面があります。とはいえ文系だからといって誰もが出世できるわけではないのですが(笑)。

現代社会に対する 責任とスタンス

小畑 学生にとって理工系の良い点は、卒業後に大学で学んだことを活かせる職業に就ける可能性が高いことでしょう。本学でも多くの卒業生が、企業の開発、研究、設計といった部門で専門分野の知識と技能を活かして活躍しています。ただ、そうした社会の戦力となるための知識修得やトレーニングが、私たちが大学生だった時代より時間がかかるようになり、学部4年間の教育ではカバーできな

くなっています。実際、本学ではおおよそ6〜7割の卒業生が大学院に進学しています。

白井 学生が獲得すべき知識量は確実に増大しており、早稲田大学でも理工系の学生は約半数が大学院に進学します。つまり、お子さんが理工系に進学すると、文系に比べて教育コストの負担が増えてしまうわけで、保護者の方々にとってこれは深刻な問題でしょう。こうした教育コストを社会全体の負担によって平準化することも、将来的には政策として考える必要があるのではないかと思います。

小畑 同感です。政府が標榜する「科学技術創造立国」やものづくりのイノベーションを実現させるためには、多くの優秀な理工系の人材が必要不可欠なのですから……。最近、アル・ゴア元米国副大統領の『不都合な真実』

が大きな話題を呼んでいます。環境問題やエネルギー問題など、現代社会には科学技術が解決すべき深刻かつ差し迫った重要課題が山積しています。こうした課題に対して研究力と人材育成で社会貢献することが大学アカデミズムの責任でもあります。本学では「MORE SENSE」使命志向型教育研究―美しい地球持続のための全学的努力として―を理念として、地球規模の課題に取り組もうという姿勢を社会にアピールしています。

白井 産学連携研究や21世紀COEなどの研究プロジェクトに、そうした農工大のスタンスが明確に感じられます。学際的な研究プロジェクトでも研究テーマ設定が非常にシャープで、そこからユニークな研究成果が生まれ

小畑 秀文 KOBATAKE Hidefumi

●東京農工大学長(平成17年5月～)
●工学博士



ています。学内の研究者同士の連携が上手に

小畑 もともと農学部と工学部だけの大学ですし、大学改革の機運から学内にまとまりが生まれていますので、研究面での学内的コンセンサスは得やすい環境にあります。

白井 そうした学内の機運は大切なことです。農工大は産学連携研究の意欲も高く、優れた実績がありますね。

小畑 ええ、産学連携のアクティビティはきわめて高いです。ただ、何でも産学連携すればいいというものではありません。拙速な外部資金獲得競争によって、大学本来の使命である基礎研究が疎かになってしまふことは、なんとしても避けねばなりません。しっかりとした基礎研究を企業が評価して共同研究に結びつく―それが産学連携研究の本来のあり方だろうと思います。

白井 おっしゃる通りです。産学連携にあたっては、アカデミズムが「やるべきこと・できること」を慎重に見極めることがもともと大切で、企業の下請け的な産学連携は慎むべきでしょう。

小畑 現時点では本学の外部資金の多くが基礎研究に対する獲得なので、健全な産学連携が行われていると思います。

変革期に求められる 長期的なビジョン

白井 2007年度より大学教員の職名は、これまでの「教授・助教授・講師・助手」から、「教授・准教授・講師・助教」に変わります。若手研究者のポストである助教に関しては多くの大学で任期制採用となり、今後、わが国でも米国のテナユアトラック制度※のような若手研究者育成システムに移行していくことになるでしょう。

小畑 本学では2006年度よりテナユアトラック制度を導入しました。世界中から集まった800名を超える応募者から選ばれた22名の若手研究者は非常に優秀な方々ばかりで、5年間の期限で立派な研究業績を得た方は、本学でパーマネントなポジションに就くことになりました。初めての試みなのですが、私自身は大きな期待を抱いています。将来、この関門を通過した研究者・教員のみで構成される大学になった時、本学は現在以上に研究力のある大学になっていることでしょう。

白井 早稲田大学でも同様のシステムを導入していますが、若手人材育成に限らず、私たちが取り組んでいる様々な大学改革の本当の意味での「成果」が見えてくるのは、どうしても10〜20年後になりますね。

小畑 すぐに「結果」が求められる企業社会からは理

解されにくいのですが、それがアカデミズムの宿命です(笑)。短期的には競争の中で切磋琢磨しながらも、10年、20年先を見据えたグローバルかつ長期的なビジョンが必要とされていると思います。

白井 現在、アジアの国々では政府が国力増強につながる優秀な人材育成を国家目標としており、今や日本の大学もそうしたグローバルな競争に巻き込まれています。わが国の大学がこれほどの変化と競争にさらされたことはかつてなかったことで、国家として腰を据えて大学の未来ビジョンを構築していくことが求められているのではないのでしょうか。生命・バイオからテクノロジーまで幅広い技術によって地球規模の課題に挑む農工大は、そうした未来ビジョンの中で重要なポジションを担うはず。小畑学長をはじめ教員の方々が、大学の責任と個性をしっかりと認識されている限り、未来は明るいでしょう。より高い目標を掲げながら、さらなるレベルアップを目指していただきたいと思っています。

小畑 本日はありがとうございました。

※テナユアトラック制度
選抜された若手研究者が独立した立場で研究を続ける場を大学が提供。一定期間の後に、研究業績に基づく審査によって准教授・教授としての終身在職権(テナユア)が与えられる研究者育成システム。

白井 克彦 SHIRAI Katsuhiko

●早稲田大学総長(平成14年10月～) ●工学博士
●東京農工大学経営協議会委員



「教育改善支援プログラム(学内GP)」の取り組みについて 福嶋 司 教授(大学教育センター長)

本学が平成17年度から取り組んでいる「教育の改善」に関する「教育改善支援プログラム」(通称:学内GP)という取り組みを紹介したいと思います。GPは good practice の略で、すばらしい取り組みのことですが、ここでは「他の模範になるような優れた取り組み」を意味しています。このプログラムは、本学の学部や学科、専攻等で行われている教育効果の高い活動や新たな教育改善の取り組みを発掘し、それに財政支援を行うことで「層の発展を期待し、全学の教育改善を活性化させることを目的にしています。この企画は、文部科学省が全国の大学に対して提案した「特色GP」や「現代GP」と同じ趣旨のもので、本学では、このプログラムにさらに磨きをかけて、そのGPプログラムに応募し、採択されることを目指しています。

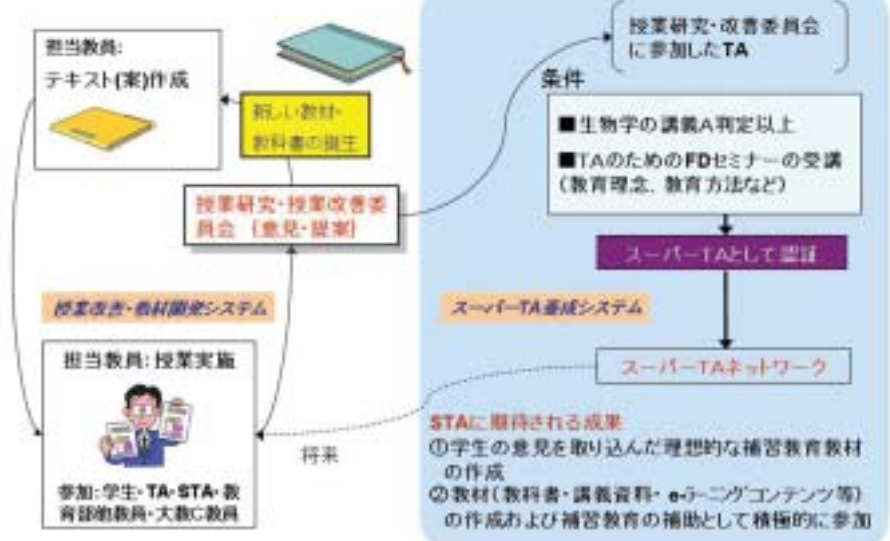
第1回目の募集は平成17年10月に行いました。15件の応募があり、そのうちの3件の助成を決定しました。今回は、そのうちの1件、「授業改善教材開発サイクルとスーパーTA養成とのコラボレーション構築」について、その内容と期待される効果について紹介したいと思います。

高校のカリキュラムの関係で、農学部に入学者の学生にとっては基礎的な科目とも言える「生物」を高校時代に履修していない学生がいること、これに加えて、大学の授業は専門分野の情報量が多く、授業の内容が十分に理解出来ない学生もいることなどが背景になっています。つまり、この計画では、高校教育と農学部での基礎専門教育を結びつける「接続教育」を行うことに主眼をおいているのです。それを実行するために教科書の作成、それに学生の参画を得て、参加した学生の教育効果の向

上も期待しているという構想です。

図に示すように、この計画では二つのシステムからなっており、それを有機的に結びつけて動かすことに特徴があります。その第1は、教科書「農学を学ぶための新生物学」を作成することです。教員の作成したテキストで授業を実施し、参加した学生と大学院生のTA(ティーチングアシスタント)大学院の学生を授業に参加させ、授業などの経験を積ませると同時に自らを研鑽してもらう制度などの意見、提案を授業研究会・授業改善委員会、より学生が理解しやすいように改善します。また、第2段階として委員会に参加したTAに対しては、2つの条件を満たした者をスーパーTA(STA)として認証します。そのSTAはTA学生のリーダーとして授業に関わり、後進のTAのアドバイスをを行うと共に、ネットワークを作って議論を進め、前述の教科書作成、授業改善サイクルに参加して、経験を生かした提案を行うものです。これらのシステムを活用することにより、教材作成等の活動を生かして学生の意見を取り組んだ理想的な教材作成ができましたし、TA学生の積極性を引き出し、教育に対する研鑽を積むことができたと考えています。

「農学部生のための生物学」の作成



他の2件のプログラムと共に昨年10月には1年間の実施期間を経て成果を検証、報告しましたが、学内の教育改善に寄与する可能性が大きいとその成果が評価されました。17年度に引き続き、18年度は9件の応募があり、2件が採択されました。今後このプログラムを通して、学内の教育の「層の改善と発展が期待されています。」

PHOTO NEWS 2006

7・8月

農学部・工学部でオープンキャンパス、受験生延べ2500名参加



6月

ロボット研究会がNHK大学ロボコンで優勝、日本代表に決定



大会着用のユニフォーム



5月

学生ガイドと共にキャンパスツアー、参加者から人参をもらう馬



4月

入学式に向かう新入生



「日本国際賞」と「マスリー賞」を受賞された 東京農工大学名誉教授 遠藤章氏に聞く。



2006年5月、遠藤 章 本学名誉教授(株式会社バイオファーム研究所所長)は、血中コレステロール値を下げる医薬品「スタチン」の発見と開発につながる研究業績により、平成18年日本国際賞を受賞されました。日本国際賞は、科学技術において独創的・飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与し、人類の平和と繁栄に著しく貢献したと認められた人に贈られるもので、遠藤名誉教授は、「治療技術の開発と展開」の対象分野で受賞。また、同年11月には同じ業績でマスリー賞 (Massry Prize) を受賞。1996年にMeira and Shaul G. Massry Foundation (米国) によって創設された同賞は、生物医学分野で顕著な業績をあげた科学者に与えられます。これまでの受賞者(17名)の中の6名が、その後3年以内にノーベル賞(生理学・医学賞4名、化学賞2名)を受賞しています。

今、世界的な注目を浴びる遠藤名誉教授に、これまでの研究生生活を振り返っていただき、農工大生へのメッセージともなる貴重なお話をうかがいました。

東北の山村に生まれ育った私は、子どもの頃から米を麹に変えるカビの働きや、毒にも食用にもなるキノコの不思議さに興味がありました。大学農学部で学生時代、青カビから抗生物質「ペニシリン」を発見したフレミング博士の伝記を読んで感銘を受け、将来は微生物を利用する医薬と食品の開発研究をしようと考えました。卒業後入社した医薬品メーカーではカビとキノコから「ペクチナーゼ」という酵素を発見し、入社2年後に、ワインとシードル(リンゴ酒)を澄清(ちようめい)にする酵素剤として特許を取得し、商業化に成功しました。

その後のアメリカ留学では、欧米先進国では心筋梗塞などの冠動脈疾患で死亡するヒトが圧倒的に多いこと、高コレステロール血症がその主要原因であるが有効なコレステロール低下薬がないことを知り、帰国後の1971年、微生物からコレステロール低下剤を探す研究を始めました。そして、6000株のカビとキノコを調べ終えた1973年夏、スタチンの原型となる「コンバクチン」を青カビから発見しました。予想に反して、コンバクチンがラットの血中コレステロールを下げない、肝毒性があるなどの困難に遭遇しましたが、それらをすべて克服して、安全で極めて有効なコレステロール低下剤であることを証明しました。私たちの成果を基にして、その後7種類のスタチン(コンバクチン同属体)が世界中で開発され、現在3000万人以上の患者に毎日投与されて、心筋梗塞、脳梗塞などの血管障害性疾患の予防に貢献しています。2005年にはスタチンの総売上が250億ドル(約3兆円)に達しました。今回の2つの受賞はスタチンの発見と開発における私の研究業績を認めたものです。世の中の役に立つ研究をしたかった少年時代からの夢が叶い、世界中から高い評価を受けたことは何よりの喜びです。

スタチンの開発研究が一段落した1978年末に、会社を辞めて農工大学農学部に移りました。教育にも関心があった私にとって、学生を指導し、若い研究者を育てることは予てからの夢でした。18年在職した農工大では、微生物を利用する産学共同研究を積極的に進め、カビから発見した菌垢形成阻害剤を利用した「菌磨きガム」、発見した紅麹カビを用いた「新紅麹」と「清酒」、酵母によるメバロン酸の大量生産と、それを用いた「新化粧品」等の開発と商業化に成功しました。非常に充実した18年でした。

1997年の定年退官後は、仲間と設立したベンチャー企業風の小さな研究所で、産学官の共同研究を進めながら、講演などで中高生の理科離れ阻止と若い研究者の育成にも努めています。農工大の学生諸君には、世のために、ヒトのために大きな夢を抱き、努力して欲しい。努力は必ず報われることを信じて!



本学農学部在職中の産学共同研究から生まれた健康食品、菌磨きガム、新化粧品

3月

卒業おめでとう



2月

個別入学試験実施、試験場風景



11月

英国・ブライトン大学と国際産学連携協定を締結

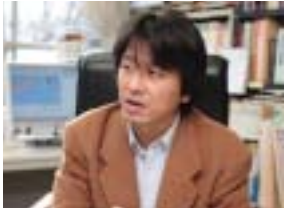


9・10月

若手研究支援室及び女性キャリア支援・開発センターが発足



農学府 農学部 環境資源科学科



世界中の海岸に漂着するプラスチックごみで海洋汚染をモニタリング

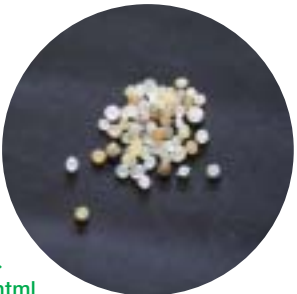
高田 秀重 准教授

みなさんは海岸に打ち上げられた漂着物(ごみ)の中に、直径5mmほどの半透明のプラスチックの小粒を見つけたことがありますか? お台場や湘南海岸などでも簡単に発見できるこの物体の正体は、プラスチック製品の原料「レジンペレット」(下図右)です。では、いったいなぜこの小粒が海岸にあるのでしょうか? 合

成工場で製造されたレジンペレットは、製品を加工する成型工場へ運ばれます。その途中、一部がトラックの荷台などからこぼれ、それが雨に洗われ水路や河川に流れ込み、やがて海に至り、その一部が海岸に漂着する……というわけなのです。プラスチックは分解されにくい性質のため、海洋環境中のレジンペレットは年々増加する一方で、今や世界中の海岸に漂着しています。海鳥が餌と間違えて食べてしまうこともあり、環境にとって由々しき事態ですが、私たちはこのプラスチックの小粒を

海洋汚染のモニタリングに利用する手法を開発しました。そのきっかけは、もともと石油製品で表面が油になじみやすい性質を持つレジンペレットが、海水中のPCB(ポリ塩化ビフェニール)や有機塩素系農薬(DDT)などの微量汚染物質を、きわめて高濃度で吸着することを発見したことでした。

従来、海水中の微量有機汚染物質を調べるためには海水そのものや生物(ムール貝等)が使われていました。しかし、これらはサンプリングの現場から分析を行う場所まで運ぶために手間も時間もかかります。PCBを測定するためには10リットルほどの海水が必要になりますが、高濃度でPCBをため込んであるレジンペレットならほんの5粒(約0.1g)あれば分析ができます。実際に海域別にレジンペレットの汚染物質濃度を調べてみると、ムール貝の分析結果とほぼ同じ結果



「International Pellet Watch」ウェブサイト
<http://www.tuat.ac.jp/gaia/ipw/index.html>

特定領域研究「多次元医用画像の知的診断支援」プロジェクトチーム代表



世界に先駆けて複数臓器・疾病を一度に診断できる画期的なCTシステムを開発

小畑 秀文 学長

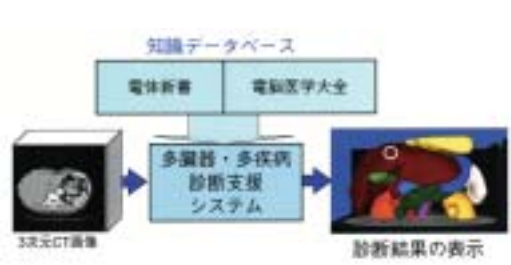
私が代表を務める研究プロジェクト「多次元医用画像の知的診断支援」は、平成15年に文部科学省・特定領域研究としてスタート。農工大のほか、名古屋大学、岐阜大学、大阪大学、京都大学、徳島大学、山口大学、名古屋工業大学などの研究者が参加し、国立がんセンターの医師の方々などの協力も得て、世界に先駆けて「多臓器・多疾病診断支援システム」の開発に成功しました。

医療機関の検査で使われているCT(コンピュータ断層撮影)は、人体を輪切りにしたときの断面を画像化する装置です。近年は高速に高精細な画像が得られるばかりでなく、1mm以下の間隔で断層像が得られるので、それを組み合わせることで、人体内部を3次元画像として忠実に再現することも可能になりました。

1回のCT撮影で得られる画像は、患者一人当たり約500〜2000枚以上。しかし、医師がすべての画像をたねんに調べるのは不可能に近い。現実的には一部しか診断に活用されていません。膨大な画像を100%活用できれば、医師はより精度の高い診断を行えるようになり、がんの転移や合併症なども早めに発見することが可能になるでしょう。そこで期待されているのがCAD(コンピュータ支援診断)。すでに肺がん、乳がん、大腸ポリプなどの検査ではCADシステムが実用化されていますが、これらは特定の臓器における特定の疾病(がん)のみに限定されたシステムです。しかし、私たちが開発した「多臓器・多疾病診断支援システム」は、胸部、腹部のCT像に含まれる主要臓器を対象に、がんはも



今年1月に開催した「多次元医用画像の知的診断支援」最終成果シンポジウム。開発したシステムのデモンストレーションも行われた。

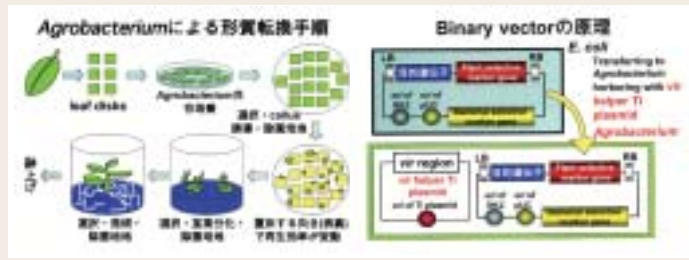


「多臓器・多疾病診断支援システム」概念図

青いバラは 何色の未来を語るか

Dihydrogen Monoxide:DHMOを知っていますか。DHMOは酸性雨の主成分であり、これを人間が多量に吸入すると発汗、多尿、嘔吐、電解質異常等の症状が見られることがあり、DHMOが原因で毎年数多くの人々が死に至らしめられています。この危険性にも関わらずDHMOは何の法規制も受けず企業利用されており、原子力施設や動物実験等で莫大な量のDHMOが使われているのです。これは川合先生が正しい知識、見極める目というものの大切さの引き合いに出した話です。種明かしをしましょう。DHMO、つまり水素が2つに酸素が1つの分子、要は単にH₂O、水のことです。前述のことに何一つ嘘はありませんが、何か騙された気分でしょうか？世の中にはこれと似たような言説が存外多いのですが、ところで最近巷を騒がせている遺伝子組み換え食品、青いバラ等遺伝子組み換え植物。それらが一体どのような技術や理論に基づいて作り出され、どのような現状にあるのか。それを知り、正しい知識を養うのがこの授業の目的だそうです。

植物工学とは大雑把に言えば、植物のバイオテクノロジーを扱う分野です。講義では植物の遺伝子組み換えの基礎技術(遺伝子をどのようにして植物細胞に組み込むか、細胞からどのようにして植物個体を再生するかなど)とその理論をはじめに学びます。そして実際に栽培、研究されている遺伝子組み換え植物(害虫耐性、除草剤耐性といったポピュラーで物議をかもしているようなものから、最近ちらほら聞き始めるようになった低アレルギー米、栄養強化米、英語で不可能の代名詞だったのに実現してしまった青いバラ、他の植物が到底育たないところでも育つストレス耐性作物、聞いたことのないような環境浄化能力強化植物など)の作出にいたるまでの試行錯誤の過程、その理論、現状、さらに将来の展望、それに掛かる法規制と、遺伝子組み換え植物に関する最新のトピックスを手広く扱います。また、講義は膨大なプリントとプロジェクターを駆使して行われるので、植物の生育具合や花色の変化の違いなど、文字数字だけではいまいひとつ納得しがたい現象を画像で見ることができ、先生の語り口と相まって興味や理解が二層深まります。ご存知の通り遺伝子組み換え技術はその存在自体、賛否両論渦巻く最先端技術です。だからこそ、それに賛成するにしろ反対するにしろ、議論にきちんとした理解は不可欠！という先生の意志のもと、とても面白く受けられる授業です。



川合伸也准教授「植物工学」——農学部 応用生物科学科 3年生 大寺宇織

学生発 こんな授業、こんなゼミ

中村昌允教授「安全工学・化学工学・油脂化学分野」——専門職大学院技術経営研究科(MOT) 修士課程2年 小田晴信 (富士重工業(株) 航空宇宙カンパニー勤務)

イノベーションの裏で、 リスクをコントロールする

仕事を終え新幹線に乗って教室に向かう。「真つ赤な夕日が惹越しに差し込む中、サンドイツ片手にモバイルPCのキーを叩きレポートを書き進める。『回復基調といわれる日本経済であるが、グローバルな競争環境が一段と強くなり、企業価値の向上が強く望まれている。この様な環境下で企業はイノベーションを起こし、価値ある研究開発で、信頼性のある製品を望まれる機能・コストでタイムリーに顧客に提供し続けることが求められている。このイノベーションのプロセスには必ずリスクが存在し、このリスクをコントロールする道具のひとつとして、クオリティ・マネジメントシステム(QMS)がある。……』調子が出てきた所で東京駅に到着した。私は社会人学生で、会社ではクオリティ・マネジメントの推進を担当している。推進には広範な経営知識と経験が重要なのだが、経験の少なさから疑問や不安、悩みも多々抱えていた。そこで少ない経験を補うと共に、製品化におけるマネジメントのあり方を研究するため、ここ技術経営研究科で学ぶ事を決めた。この1年間でベンチャーや大企業のトップマネジメントを経験する教授陣の講義から経営者の視点や思考を学び、ケーススタディやクラス討論を通じて経営判断の疑似体験をし、幅広い知識を会得した。また、学生自ら企画し、半導体製造企業やセメント工場を訪問したり、昨年9月にはプロジェクト研究の一環として、教授3名学生11名で中国の企業や大学などを訪問したりした。中国訪問では、経営者との討議を通して私のテーマとした「中国にお



けるクオリティ・マネジメント」に関する調査を行うという貴重な経験もした。そして2年次の今年、安全や化学を専門とする中村教授の指導の下、より実践的なビジネスプランの立案を中心に研究を進めている。この研究科、十分な研究室も無く設備や運用に不足な部分もあるが、教授陣と学生の創造的な熱意がそんなことを忘れさせる毎日である。授業のあと、クラスメイトとの軽い食事では、新しいビジネスモデル談義に花が咲く。そんな余韻を持ちつつ電車に飛び乗り、コーヒードラムにキーボードをたたき、「ビジネスプランのテーマとしては、リスク低減のための業務改善ツールの開発や技術経営教育の新モデルなど……。」通学時間は貴重な研究時間でもある。

大学からのお知らせ

キャンパスツアーのご案内

学生ガイドの案内で武蔵野の緑に恵まれたキャンパス散策を体験してみませんか?どなたでも無料で参加できます。

- 実施日 水曜日(府中キャンパス及び小金井キャンパス隔週実施)
- 時間 15:30~17:30(夏の学科別キャンパスツアー 10:00~)
- 参加申込み
メール又は電話でお申込みください。
(E-mail:tour@cc.tuat.ac.jp TEL: 042-367-5895)

- 見学コース
【府中キャンパス】
研究室、動物医療センター、図書館、FSセンター(農場)、馬場など
【小金井キャンパス】
研究室、附属繊維博物館、図書館、小金井総合会館(工学部食堂)など

<http://www.tuat.ac.jp/social/tour/2007/index.html>

公開講座2007

本学の特色を生かした公開講座が揃っています。

<http://www.tuat.ac.jp/social/openuniv/2007/index.html>

講座名(抜粋)	開設日	場所
プロに学ぶゴルフ初級講座 (前期・後期)	6/2~6/30 9/29~10/27(毎週土)	府中キャンパス (ゴルフ練習場)
実習で学ぶ農業教室17 -発酵食品の科学-	6/30~7/28(毎週土)	府中キャンパス (FSセンター)
野生動物の救護と自然保護	7/28(土)~7/29(日)	府中キャンパス (FSセンター)
子どもインターネット教室2007	8/4(土)~8/6(月)	小金井キャンパス (小金井図書館)
子ども樹木博士	8/26(日)~9/2(日)	府中キャンパス
遺伝子操作トレーニングコース	9/19(水)~9/21(金)	府中キャンパス (遺伝子実験施設)
リフレッシュ気功・呼吸法	10/27(土)~10/28(日)	小金井キャンパス (武道場)

農工大ブランド焼酎「賞典祿(ショウテンロク)」を発売

本学特産の米・麦・芋を原料としたオリジナル焼酎が間もなく発売されます。「賞典祿」は大久保利通が勸農局に賞与を献納して奨学の資にあてたことに由来し、このネーミングは学生・教職員・卒業生からの応募により選ばれました。原材料にこだわった農工大の味をご期待ください。

【原料の品種】

米「月の光」、芋「パープルスイートロード」、
麦は未定(発売は秋ごろの予定)

【商品】

「賞典祿」農工大の米・麦・芋で作った焼酎
720ml 2,000円(化粧箱付き)、
300ml 2本詰(米・芋) 1,500円



東京農工大学出版会を設立

本学の教育研究活動を中心とする学術成果を、出版活動を通じて広く公表・普及し、教育研究の振興と文化の向上に寄与することを目的として、平成18年11月に出版会が設立されました。

近日中に第一作となる「人が学ぶ 昆虫の知恵」普後一著(研究院教授、農学部生物生産学科)を出版予定です。

授業料の口座振替実施日の変更について

平成19年度から授業料の口座振替実施日が5月27日(前期分)と11月27日(後期分)となりました。(ただし、27日が休日の場合には、翌日が引落日となります。平成19年度前期授業料の引落日は平成19年5月28日(月)です。)ご入金は、前日(金融機関営業日)までにお願ひ致します。

お問合せ先: 資産管理チーム 出納係 電話: 042-367-5523

問合せ窓口のご案内

お問合せ内容	問合せ窓口・電話番号等
○修学に関する質問・相談 履修、成績、卒業、休学、退学 等	府中地区及び小金井地区 学生サポートセンター教務係 農学部 TEL 042-367-5662 E-mail a-kyomu2@cc.tuat.ac.jp 工学部 TEL 042-388-7010 E-mail tkkyomu1@cc.tuat.ac.jp
○学生生活に関する質問・相談 就職、奨学金、授業料免除、 災害傷害保険、ハラスメント 等	府中地区及び小金井地区 学生サポートセンター学生生活係 農学部 TEL 042-367-5540 E-mail a-gaksei@cc.tuat.ac.jp 工学部 TEL 042-388-7011 E-mail tkkousei@cc.tuat.ac.jp
○健康相談・精神保健相談 等	保健管理センター 府中地区 TEL 042-367-5548 小金井地区 TEL 042-388-7171

メールマガジン登録受付中

大学から毎月1回、学内ニュースや様々なお知らせなどをお届けします。

●登録方法 <http://www.tuat.ac.jp/social/mail/index.html>

【パソコンの場合】

下記URL(登録サイト)からお申し込みください。

URL → <https://mdh.fm/e?kB003BH4yw>

【携帯電話の場合】

下記メールアドレスに空メール(本文・タイトルを記入しない)を送信すると自動的に携帯用登録URLが返信されますので、そちらからお申し込みください。
空メール用アドレス → tat@am.md.2

平成19年度学年暦

月 日	事項
4月1日(日)	学年開始、前学期開始
4月1日(日)~5日(木)	春季休業
4月6日(金)	入学式(春季)
4月6日(金)~9日(月)	新入生オリエンテーション
4月9日(月)	2、3、4年次授業開始
4月10日(火)	新入生授業開始
4月17日(火)~20日(金)	定期健康診断
5月31日(木)	創立記念日
7月25日(水)~27日(金)	補講期間
7月30日(月)~8月3日(金)	前学期定期試験
8月4日(土)~9月30日(日)	夏季休業
9月19日(水)	修了式(秋季)
9月30日(日)	前学期修了
10月1日(月)	後学期開始、授業開始
10月10日(水)	入学式(秋季)
11月9日(金)~11日(日)	学園祭
12月22日(土)~1月6日(日)	冬季休業
2月6日(水)~8日(金)	補講期間
2月12日(火)~18日(月)	後学期定期試験
3月25日(火)	卒業式
3月31日(月)	学年終了、後学期終了

住所変更をされたご父母の方へ

本誌は、平成19年4月現在、大学に登録されている「学生の保証人住所」に郵送しております。住所変更の手続きは、学生本人が所属学部・学府等に
出向き、届出を行わなければなりません。まだ住所変更を届けていない方は、お子様(保証している学生)に手続きを行うようご指導願います。